



<展覧会 開催のお知らせ>

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）では、運営母体である「あいおいニッセイ同和損保」のメセナ活動の一環として、全国の大学、美術大学で日本画を学んだ学生の展覧会を 2021 年より開催しています。

この活動は、さらなる「文化芸術振興」を目指し、若手の日本画家を対象とした発表の場の提供、また地方大学の卒業作品展示等や各地域と連動した企画の実施により「地方創生」を推進するギャラリー開設の主旨によるものです。今回は、2 月 26 日(土)から「武蔵野美術大学 日本画学科卒業生グループ展」岡田 好美・佐藤 慧・都築 良恵・中島 綾美の展覧会を開催いたします。

■タイトル / 『I'm here.』

～第 7 回大学日本画展 <武蔵野美術大学 日本画学科卒業生グループ展>～

■会 期 / 2022 年 2 月 26 日(土)～3 月 13 日(日) 11:00～19:00 (月曜定休)【入場無料】

* 新型コロナ感染拡大の状況により、開廊日や営業時間を変更する可能性があります

ご来廊の前には必ずギャラリーの HP/ <https://unpel.gallery> または Twitter/ https://twitter.com/unpel_gallery/ をご確認ください

■会 場 / UNPEL GALLERY

東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F

■参加作家名（ふりがな）

・岡田 好美(おかだ このみ)

・佐藤 慧(さとう けい)

・都築 良恵(つづき よしえ)

・中島 綾美(なかしま あやみ)

■主 催 / 武蔵野美術大学日本画学科研究室

■企 画 / UNPEL GALLERY

■協 賛 / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

■展覧会内容

武蔵野美術大学日本画学科の卒業生 4 名による展覧会「I'm here」を開催いたします。

このタイトルには、過去でも未来でもなく今この瞬間に目を開き、自分達のしていることを真っ直ぐに示したい、という思いが込められています。

特異な時代を生きていく上で、それぞれ何を見て、何を感じて、何を描くことができるのか。

目に映るものを、逃げることなく作品に写し描くことで、各々が掲げる自己所在の証明ができるのではないかな。

混乱の中でも、自分の足元さえ見ることができたならば、ここまでの道程やこれからの行き先も、明瞭に見えてくるはずです。

私たちのスタイルや生き方は全く異なりますが、一途に、真摯に制作活動をしていることは通底しています。

4 人が、それぞれ今同じ瞬間を見つめて、悩み、生きているからこそ生み出すことのできる作品に、触れていただけたら幸いです。

■みどころ

作家それぞれの現在地を示した作品を展示いたします。

何が起ころうとも、翻弄されず愚直に制作に取り組む 4 人の姿をご覧ください。

<ご連絡・お問い合わせ先>

■ギャラリーオフィス 11:00～19:00 (担当 / 中島 内城) * お問い合わせは E-mail にてお願いします

E-mail / tsubaki@un-pel.com TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781

●作家プロフィール

岡田 好美 OKADA Konomi



1996 東京都生まれ
2019 武蔵野美術大学 造形学部 日本画学科 卒業
2021 武蔵野美術大学 大学院 造形研究科 修士課程
美術専攻 日本画コース 修了

展示歴

2016 「iki 展」 ガレリア青猫 (東京)
2017 「裸足で君と展」 gallery CLOSET (東京)
2020 Gallery KINGYO×gallery_neo 共同企画
「Present day」 (東京)
2021 武蔵野美術大学 卒業・修了優秀作品展 (東京)

身近なモチーフを取り上げ、恐怖心や苦悩、無下にされたものの昇華をテーマに制作。
生からなる激情や精神の脈動を描きとる為に、ドローイング制作を繰り返しながら、絵画における行為性について追求している。



「浴室にて」 116.7 × 80.3 (mm) 紙 岩絵具 コンテ

佐藤 慧 SATOU Kei



1994 神奈川県生まれ
2019 武蔵野美術大学 造形学部 日本画学科 卒業
2021 武蔵野美術大学 大学院 造形研究科 修士課程
美術専攻 日本画コース 修了

展示歴

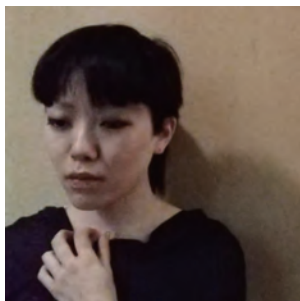
2021 武蔵野美術大学 卒業・修了優秀作品展 (東京)
「阿佐ヶ谷アートストリート芸術祭」 (東京)
2022 個展「Providence」 Kodama Gallery (東京)

特定の対象に注意を向けたいものを作りたいと考えた
重力からなる自然界の構成の理を利用して、日本画を表現したいと思った
従来の日本画の素材を使用しながら、そこにはない全く新しい素材も使って、新たな日本画の絵画表現を目指している



「Panta rhei」 242 × 410 (mm) × 9 枚
岩絵具 レジン 墨 胡粉 インク 2021

都築 良恵 TSUZUKI Yoshie



1992 埼玉県生まれ
2016 武蔵野美術大学 造形学部 日本画学科 卒業
2018 武蔵野美術大学 大学院 造形研究科 修士課程 美術専攻 日本画コース 修了

展示歴

個展

2018 ギャラリー Q、東京
2020 ギャラリー Q、東京
2021 「Ambient Cakes」 ギャラリー Q、東京

主なグループ展

2015 「ピエンナーレ OME 2015」 青梅市立美術館 (東京)
「八王子ビッグウエスト学生美術展 ビッグウエスト学生フェスティバル 2015」 八王子東急スクエアビル (東京)
2016 武蔵野美術大学 卒業・修了優秀作品展 (東京)
2017 「山本冬彦推薦作家による新春日本画7人展」 The Artcomplex Center of Tokyo (東京)
「ここを先途と」 コートギャラリー国立 (東京)
「第26回奨学生美術展」 佐藤美術館 (東京)
2018 武蔵野美術大学 卒業・修了優秀作品展 (東京)
「離陸」 佐藤美術館 (東京)
「プレオドレーニエ (克服)」<日露の若者による展覧会>
マネージ中央展覧会ホール (サンクトペテルブルク)、モスクワ市国立展示スペース新マネージ (モスクワ)
「第54回神奈川県美術展」 神奈川県民ホールギャラリー (神奈川)
「ギャラリーへ行こう 2018」 数寄和 (東京)
2019 「明日をひらく 絵画 第37回 上野の森美術館大賞展」 上野の森美術館 (東京)
「Art Meeting 2019」 ギャラリー Q (東京)
「第8回 Artist Group -風-」 東京都美術館 (東京)
2020 「花信風〜第8回 Artist Group -風- 小品展〜」 高島屋日本橋店 6階美術画廊 (東京)
高島屋京都店 6階美術画廊 (京都)、高島屋大阪店 6階美術画廊 (大阪)
2021 「第10回 菅橋彦大賞展」 倉吉博物館 (鳥取)
「Heartwarming 2021」 ギャラリー Q (東京)

受賞歴

2016 「平成27年度武蔵野美術大学卒業・修了制作展」 優秀賞
2018 「平成29年度武蔵野美術大学卒業・修了制作展」 優秀賞
「第54回神奈川県美術展」 美術奨学会記念賞

その他

公益財団法人佐藤国際文化育英財団 佐藤美術館 第26期 奨学生



「WAY HOME」 80.3 × 65.2 (mm) 高知麻紙 岩絵の具 2021

人物、植物、風景等を足掛かりにして、人間の内面世界を描いています。どんな人の内側にも普遍的に、怒り、悲しみ、そして喜びという感情はあるものです。絵を描くにあたって、はじめは単に何らかの捌け口として画面に挑んでいましたが、次第に「こんな気持ちは誰にでもあるのではないか (それこそ、動物にも物にも)」という思いが強くなっていきました。根拠はありません。ただ、そう信じたくもなるほど、寂しかったり、嬉しかったりしたのだと思います。自分の内面に起こる感情が、自分ただひとりだけのものだとは思えないのです。私にとって絵は、生きているうちに幸運にもたまたま出会うことのできた、唯一の表現の手段です。他の事は何も続きませんでした。一番の理想を追いかけていくのは、それそのものが喜びに他なりません。あまり難しく考えず、ご覧ください。

中島 綾美 NAKASHIMA Ayami



1993 山口県生まれ

2017 武蔵野美術大学 造形学部 日本画学科 卒業

展示歴

2017 武蔵野美術大学 卒業・修了作品展 (東京)

2018 個展「中島綾美展－水脈－」柴田悦子画廊 (東京)

2019 個展「中島綾美展－映し鏡の森－」八犬堂ギャラリー (東京)
「ホリデーコレクション展」蔦屋書店 (東京)

2020 「郷さくら美術館 桜花賞展」郷さくら美術館 (東京)
個展「中島綾美展－天使の輪郭－」gallery hydrangea (東京)

2021 グループ展「絵、纏う」数寄和 (東京)
個展「中島綾美展－渚の魔物たち－」柴田悦子画廊 (東京)

他グループ展多数



「夜の口笛」F40 号 白麻紙 岩絵具 染料
2021

今回は、真実を見抜く手段として伝えられてきた俗習と自然を軸に制作しました。

自然災害によって多くの情報が交錯し、それらに潜む思惑に左右され、行き着く先は何者かへの責任転嫁。きっと昔からそうなのだと思います。

本展コンセプトのように、自分の持つ材料を活かして歩めたら、今の世の中でも腹を据えて進むことができるかもしれません。

そのような思惑をも簡単にすり抜け、善意も悪意もなく自然の現象がさらっていきます。

度し難くも憎めない人間と私たちに覆い被さる美しい自然を、博物図や標本のように記していけたらと思います。